

「多施設共同での成人 T 細胞白血病ウイルス (HTLV-1) が生体肝移植の成績に及ぼす影響に関する研究」へのご協力をお願い

- 1996 年 1 月 1 日から 2013 年 12 月 31 日までに当院で生体肝移植手術を受けられた方へ -

研究機関名 岡山大学

責任研究者	岡山大学病院	肝・胆・膵外科	教授	八木孝仁
分担研究者	岡山大学病院	肝・胆・膵外科	助教	篠浦 先
	岡山大学病院	臓器移植医療センター	助教	楳田 祐三
	岡山大学病院	低侵襲治療センター	助教	吉田 龍一
	岡山大学医学部	消化器外科	非常勤講師	信岡 大輔
	岡山大学病院	臓器移植医療センター	助教	内海 方嗣

1. 研究の意義と目的

成人 T 細胞白血病ウイルス (HTLV-1) のキャリアは我が国において約 100 万人存在するとされています。感染経路としては母乳からの母子感染、輸血、性感染が報告されており、大部分のキャリアは無症状のまま経過しますが、成人 T 細胞白血病 (ATL) あるいは HTLV-1 関連脊髄症 (HAM) を発症すると、予後不良であることが知られています。HTLV-1 キャリアに対する臓器移植後は免疫抑制剤の使用により、HTLV-1 関連疾患の発症が増加するとの報告もありますが、その詳細は不明です。

本研究では、(1) HTLV-1 陽性レシピエント及び陽性ドナーにおける生体肝移植後 ATL あるいは HAM 発症の頻度と発症の危険因子 (2) HTLV-1 陽性レシピエント及び陽性ドナーにおける生体肝移植後生存率を解明することを目的に、全国の肝移植を施行する下記 16 施設にて調査を行うこととなりました。

注：キャリア～病気を引き起こす細菌やウイルスなどを体内に持っている人)

レシピエント～移植を受ける側 (臓器を受ける側) の患者さん

ドナー～移植臓器の提供をする側の人

2. 研究の方法

1) 研究対象

岡山大学病院及び下記の肝移植施設において、1996 年 1 月 1 日以降 2013 年 12 月 31 日までに HTLV-1 陽性レシピエントあるいは陽性ドナーに対する生体肝移植を施行された 92 名の患者さまのうち、当院では 2 名の患者さまが対象です。

2) 研究方法

研究資料として、カルテより年齢、性別、身体情報、血液検査、画像診断、病理学検査、感染症検査、移植手術情報といった臨床情報を抽出し、データを収集・解析致します。

3) 研究期間

2014 年 5 月開催の倫理委員会承認後から 2016 年 12 月 31 日までです。

4) 個人情報の保護

調査情報はすべてコード化し、固有名詞は記号化し、個人の特定を防ぎます。岡山大学病院 肝・胆・膵外科、臓器移植センター内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワードなどで制御されたコンピュータに保存し、その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。得られた調査結果は研究目的以外には使用しません。論文や学会等で公表する場合は、個人が特定されない形式にて発表する予定です。

この研究に御質問などありましたら、下記まで御問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについて、ご了承頂けない場合には研究対象としませんので、平成 28 年 12 月 31 日までの間に下記の連絡先までお申し出ください。

この場合にも診療などの病院サービスに於いて患者の皆様に不利益が生じることはありません。

お問い合わせ・連絡先

〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学病院 肝胆膵外科、臓器移植医療センター

氏名：榎田祐三

電話：086-235-7257, Fax: 086-235-7636

研究機関

九州大学病院肝臓・脾臓・門脈・肝臓移植外科（代表研究機関）

愛媛大学肝胆膵・移植外科、大阪大学消化器外科、大阪市立大学肝胆膵外科、

岡山大学肝・胆・膵外科、京都大学肝胆膵・移植外科、

京都府立医科大学移植・一般外科、熊本大学小児外科・移植外科、

慶應義塾大学外科、国立成育医療センター、

千葉大学先端応用外科、千葉大学臓器制御外科、

東京大学肝胆膵外科・人工臓器移植外科、東北大学移植・再建・内視鏡外科、

長崎大学移植・消化器外科、名古屋大学移植外科、

広島大学消化器・移植外科、北海道大学消化器外科 I